



叶った一つの夢

「一人ひとりが主人公」～学校はみんなで作る～ というテーマの中で、『主人公とは、困難な仕事に全力で立ち向かい、明日への夢とロマンを持ち続ける人』（主人公論⑤）としています。

「大草小学校 創立百周年記念誌」の中で、「思い出の記」として大正7年卒の岩崎一氏がこう書かれておられます。“その頃の運動会は、いつも川内の上、鎌倉山のあたりの「焼野」の原で春おこなわれた。”

大草小の校歌にも出てくる「鎌倉山」も岩崎氏はじめ多くの方が同誌で書かれている「焼野」も気になって仕方ありませんでした。運動会だけではなく、遠足にも行っていたそうなのです。「鎌倉山」「焼野」とは一体どこなんだろう…。(中略)「いつか子どもたちを連れてきたいですね。」と教頭先生と話しながら、展望台を後にしました。

大草小学校だより 令和5年9月22日発行
大草のよさ再発見・新発見 「焼野」とは…より抜粋

昨年度から思い描いていた私の夢が、一つ今日叶いました。
この夢の実現に向けて、多くの方が力を貸してくださいました。

- 150周年のお祝いに向けて、「今からでもできること」にあがっていた「くす玉」を、会長が子どもたちの力も借りて、作ってくださっていました。全員でゴールした後、5,6年生に割ってもらいました。中からは「大草最高」の文字が…。感無量でした。何回でも使っていきましょう!
- 運営協議委員やストレッチ教室の皆さんが、大草小米を使った塩にぎりを大量に作って運んでくださいました。別にいただいた沢庵も、まだ温かい塩にぎりも最高に美味しかったです。多い子で4個食べたそうです!
- 副会長はじめ何人もの保護者の方が、前日から仕込みに入って豚汁を作って運んでくださいました。大鍋で作った豚汁の味は格別でした。「おにぎりだけでいい」と言っていたのを、「みそ汁」→「豚汁」と要求を高めてしまい、申し訳ありませんでした。こちらも多い子は4回お代わりしたそうです!
- 草刈りをして広場や展望台を最高の状態にしてくださったり、徐行をお願いする立て看板を何枚も貸してくださったりした多良見支所の皆さんにも助けられました。

まだまだ挙げればきりがありません。本当に多くの方の力でつくりあげた行事となりました。『主人公とは 友達の苦しみや優しさが分かり、他人の中に自分を見つけることができる人』という3つ目の主人公論を掲げて出発した子どもたち。疲れている人に気づき、励ましながら歩く主人公を何人も見かけました。「学校はみんなで作る」の『みんな』には、教職員、子ども、保護者、地域の皆さん、行政…多くの方が含まれていることを改めて感じました。

本当にありがとうございました。明日の門松づくり、餅つきもよろしく願いいたします。